



『学習設計マニュアル』 を活用した 学び方を学ぶための授業設計

RCIS連携研究員 竹岡篤永（明石工業高等専門学校）
共同研究者 鈴木克明

あらまし

1. 高専初年次向けのキャリア関連科目を設計
 - 『学習設計マニュアル』を活用して学び方を学ぶ
 - （ビデオやWeb資料を使った仕事についての回が半数程度）
 - パソコン室で、mahara、Googleフォームを活用
 2. 毎回以下を盛り込む
 - 確認クイズ（Googleフォーム）での確認
 - 得た学びのmaharaのテンプレートへの記入
 3. 『学習設計マニュアル』を通じた学習の結果
 - （例）「今までに考えたことがなかった」「実際に行ってみて、よい方につながっている」との声
- アンケート結果や提出物の分析結果からの改善点の抽出はこれから。

2

授業の概要

項目	概要
科目名	ソーシャルデザイン入門（X高専で実施）
授業のねらい	【仕事について】自分の将来に役立てることができるよう、自分の興味関心に沿った仕事だけでなく、より広範の仕事の現実に触れ、それらを説明できる。 【学び方について】自分自身の学習スタイルや仕事で使われるスキルなどを把握し、将来を見通した学び方を身に付けることができる。
対象者	高専1年生（高校1年生相当）4クラス→合計171人
形態	1回45分／通年で全30回／必修科目 ★ パソコン・mahara・Googleフォームを使う
実施方法	仕事編： 働く人のビデオ視聴、身近な人へのインタビュー（夏・冬休みの宿題）、Web上の資料を読むなど 学び方編： 『学習設計マニュアル』を読み、理解度確認クイズに答え、練習問題を行う

3

全19章のうち使った部分

- 第2章 学習スタイルを把握する
- 第3章 学び方を振り返る
- 第10章 失敗に強くなる
- 第9章 時間を管理する
- 第11章 学習意欲を高める
- 第8章 仲間と力を合わせる
- 第16章 これからの学びを想像する

7章分使いました

4

学び方編：1回の授業

学生の動き	教員からの情報提示
(パソコン室へ来たたら・・・) ●各自、パソコンにログオン ●maharaにログイン	●mahara上に掲載した「今日の目標」「今日行うこと」を教室前方のスクリーンに映し出す ●ポイントを解説
●『学習設計マニュアル』を読む ●確認クイズを全問正解するまで行う (Googleフォーム)	(確認クイズをあらかじめ用意)
●練習問題を行う (maharaに書き込む)	(mahara用のテンプレートをあらかじめ用意)
●今日の学びを整理する (maharaに書き込む)	(mahara用のテンプレートをあらかじめ用意)
●maharaログアウト ●パソコンログオフ	●まとめのキーワードを映し出す ●簡単な解説

「失敗に強くなる」の回

mahara「今日のページ」

mahara

20171114

今日の目標

- 自分の失敗力を把握し、失敗に強くなる方法を学ぶ

今日行うこと

- 失敗力自己チェックシートに答える
 - 第10章 練習問題 1
- 資料を読む (『学習設計マニュアル』第10章 失敗に強くなる)
 - じっくり読む
 - 内容を理解できたかどうかを確かめる→理解確認クイズ
 - 練習問題 2～4 を行う→第10章 練習問題 2～4
 - キーボードが苦手人は本に書き込んでかまいません。
 - フィードバックを読み自分の答えを確認する (フィードバックは後で配布)
 - 今日行ったことをmaharaに記録する
 - テンプレートは「失敗に強くなる (20171114)」
- 授業方法・学びの深まり程度のアンケートに答える
 - アンケートはこちらです。

↑ ここまでが今日の必須の活動です。

・ (時間に余裕があるひとは) 「第10章 失敗に強くなる」アンケートに答える
 ・ (さらに時期に余裕があれば) 「知識社会で生き残るための『頭の良さ』とは？」を読む (←このような付加情報から考えたことをmaharaのページに付け加えても構いません。推奨します。)

確認クイズ

質問 回答 385

「第10章 失敗に強くなる」クイズ

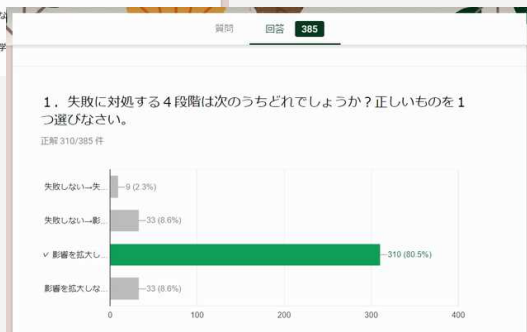
問題は全部で7つです。なんでも答えることができます。全問正解をめざしましょう。

このフォームでは 高知商大2mail のユーザーのメールアドレスが自動的に収集されます。 [設定を変更](#)

1. 失敗に対処する4段階は次のうちどれでしょうか？正しいものを1つ選びなさい。

- 失敗しない→失敗から学ぶ→早く立ち直る→失敗を恐れない
- 失敗しない→影響を拡大しない→失敗から学ぶ→失敗を恐れない
- 影響を拡大しない→早く立ち直る→失敗から学ぶ→失敗を恐れない
- 影響を拡大しない→早く立ち直る→失敗を恐れない→失敗から学ぶ

確認クイズの結果



学習の振り返り用テンプレート

mahara
ユーザを検索する

ダッシュボード コンテンツ ポートフォリオ グループ

失敗に強くなる (20171114)

by SD_2017

[このページを編集する](#) [コピー](#)

練習問題 1 (失敗力自己チェック)

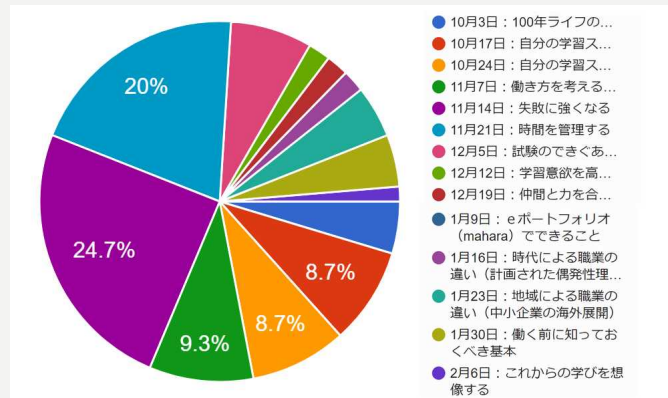
練習問題 1 の結果から、現在の自分の失敗力 (点数) を書き、自分の「失敗力」について気づいたことを書き留めておきましょう。

練習問題 2 他 (失敗に強くなるために)

練習問題 2 で書いた自分の失敗を書きましょう。さらに、学んだ事の中から、失敗に強くなるために今後できそうなことを書きましょう。

どの授業が役にたったのか？

- 後期14回のうち、学び方編を7回、仕事編を7回実施
- もっとも役に立った回は「失敗に強くなる」（学び方編）
- 2番目に役立った回は「時間を管理する」（学び方編）



最終回（2/6）に実施したアンケート結果より（回答数150）

9

「失敗に強くなる」がもっとも役だったと回答した学生の声（主なもの）

- ★ いままで失敗力なんていうことを考えたことがなかったから。
- ★ 失敗力のチェックなどで自分の失敗力を知ることができ今後の自分に活かすことができると思ったから
- ★ 失敗の見方がかわった
- ★ 失敗が必ずしも悪いというわけではないとわかったから。
- ★ その時ちょうど失敗をしていて必要だったから
- ★ 実際に失敗には弱いので、そのことについて考えることができよかったと思ったから。僕が苦手なことだったから実際に考えて対処方法を学ぶことができたから
- ★ 失敗は誰しもがするもので、しかも、人生にそれが数えきれないほどすると思われ、いちいち失敗一つにしょげていたらきりがないと思うから。
- ★ これのおかげで、失敗をすることを恐れないようになった。成功も増えてきて、自分の自信につながった。

10

まとめ

1. 高専初年次向けのキャリア関連科目を設計
 - 『学習設計マニュアル』を活用して学び方を学ぶ
 - (ビデオやWeb資料を使った仕事についての回が半数程度)
 - パソコン室で、mahara、Googleフォームを活用
 2. 毎回以下を盛り込む
 - 確認クイズ (Googleフォーム) での確認
 - 得た学びのmaharaのテンプレートへの記入
 3. 『学習設計マニュアル』を通じた学習の結果
 - (例) 「今までに考えたことがなかった」「実際に行ってみて、よい方につながっている」との声
- アンケート結果や提出物の分析結果からの改善点の抽出はこれから。(45分では時間が短すぎる、操作が困難な学生が数名存在することはわかっている・・・)

11